



TITLE:

本年六月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

本年六月の天象. 星 1930, 5: 9-11

ISSUE DATE:

1930-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169018>

RIGHT:

本年六月の天象

太 陽

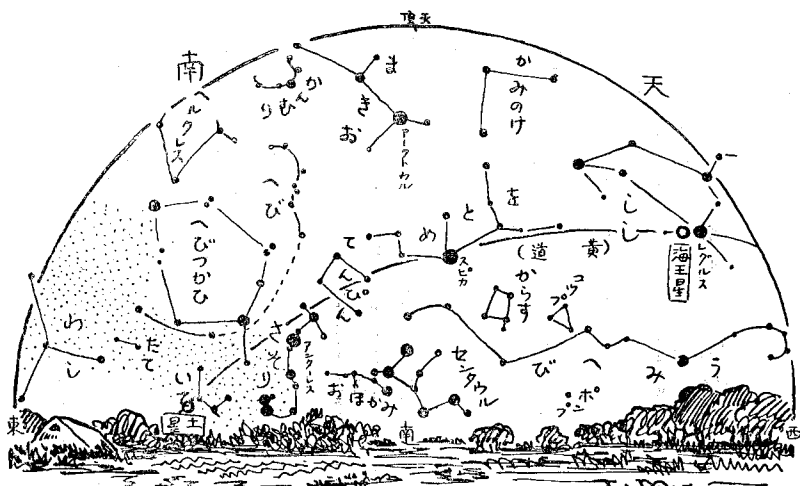
日	赤經	赤緯	視直徑	星 座
1	4時34分31秒	北22度 0分	31分35秒	う し
11	5時15分42秒	北23度 4分	31分33秒	う し
12	5時57分15秒	北23度27分	31分31秒	ふたご
(31)	6時 8分48秒	北23度 9分	31分31秒	ふたご

月始めは双子座にあるが、22日から巨蟹宮に侵入する。即ち此の日は夏至であつて、晝間最も長く、日出は午前4時46分、日没は午後7時17分である。太陽の赤緯は北緯23度27分0秒にまで達する。視直徑は次第に減少して、月末には31分30・8秒となり、本年中での最小値となる。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
上 弦	4日午前 6時56分18秒	32分 8秒	し し
満 月	11日午後 3時11分42秒	30分15秒	へびつかひ
下 弦	19日午後 6時 0分24秒	30分 0秒	う を
新 月	26日午後10時46分42秒	32分55秒	ふたご
遠地點通過	16日午前 9時54分	23分30秒	や ぎ
近地點通過	28日午後 0時18分	33分 7秒	か に

3日の午前9時に海王星と出合つて、その北側を通るのが、今月の月の遊星歴訪の最初である。次ぎは、13日午前6時に土星に追ひ付くのであつて、その南5度の所を通る。21日午前4時には天王星に出合つて、その南側僅か離れた所を通る。我國からも見えるが、天王星の光度が小さいから、望遠鏡は必要である。次いで、23日正午に火星と出合つて、その僅か北側を通り、25日午後1時には水星に追いついてその北側を、更らに、26日午後4時には木星を追ひ越すが、共に新月に近いので観望は不便、29日午前9時に金星と出合ひ、30日午後4時に再び天王星と出合つて、今月の歴訪を終る。



六月の遊星界

水 星 暁の星・1日に停留となつて後は徐々に順行を始め、15日に西方最大離角 23° になる。位置は月始めに「うし」座プレヤデスの南にあるが、月末には「うし」座東端に迄達する。視直径は月始め $10\text{秒}8(\text{角})$ 、月末に $5\text{秒}8$ となる。光度は月始め正2等、月末負零等半となる。

金星の西空に在り、月始めは「ふたご」座西部にあり、順行して、月末には「かに」座東端まで達する。視直径は次第に増大し、12秒より14秒になる。光度も今後は徐々に増す。今月は負³等半。

火星 曉に光度¹等半として輝き、「うを」座東端より順行して、「ひつじ」座東端まで到る。視直徑5秒。午前²時頃東天に登る。

木星 宵の星であるが、太陽に近く觀望不能、20日に太陽と合となる。

土 星 宵に東天に登る。「いて」座にあり、光度 0 等に近く、視直径は 16 秒。

天王星 暁の星。「うを」座順行す。視直星³秒。光度6等。

每王星 宵の西天にあり。レグルスに近い。光度8等。視直径2秒餘。

